



# 21世紀の奈良にふさわしい医療を目指して 若手医師の活躍の場が広がります

## 高度医療の充実を図ります

### ◆奈良県総合医療センターの移転整備

北和地域の高度医療拠点病院として移転整備を行い、2018年5月1日に開院しました。

#### <基本方針>

- 救急医療の充実
  - ・急性期医療の充実
  - ・集中治療部門の強化
- 周産期医療の充実
  - ・糖尿病や高血圧症等の高リスク妊産婦に対応した周産期医療の充実
- 専門的な質の高いがん医療の提供
  - ・最新の放射線治療装置の設置
  - ・化学療法室の拡充

### ◆奈良県立医科大学附属病院の拡充整備

中南和地域の高度な医療拠点病院となる機能強化を図るため、2016年10月から新病棟（E病棟）が全面供用され、がん医療、周産期医療、手術機能を強化しました。また、2018年2月には、ヘリポートが整備され、救急医療がさらに充実しました。

#### <基本方針>

- 汎用手術室の整備による、先端医療への対応
- 放射線治療や化学療法等の施設の充実と強化による総合的ながん治療の推進
- 総合周産期母子医療センター、小児センターやメディカルベースセンターなど、母と子が快適にサービスを受けられる環境の整備
- 来院者が癒やしを感じられるアメニティ空間を整備

奈良県総合医療センターは働きがいのある病院として地域医療を支える医師の養成を図ります。

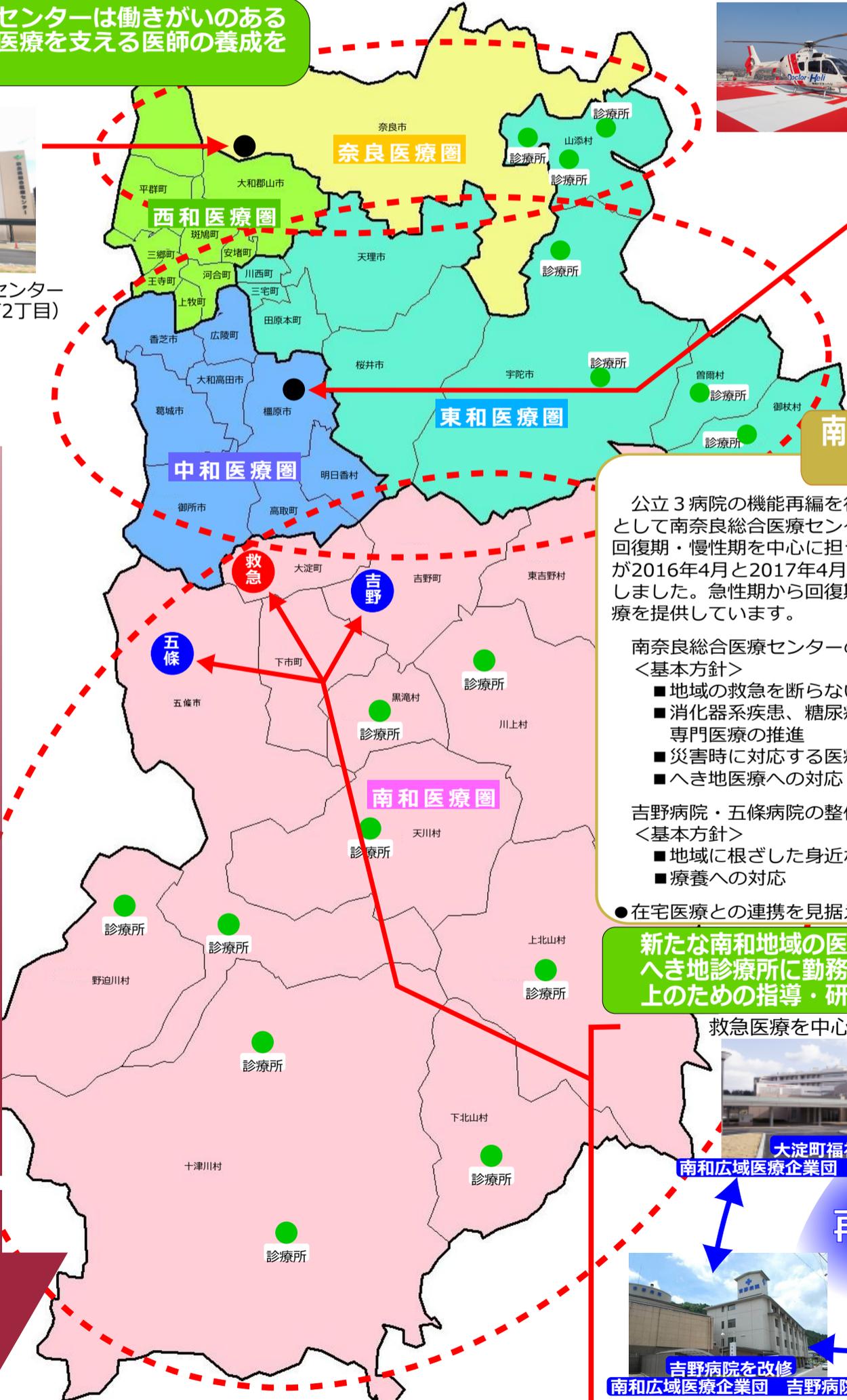


新病院 奈良県総合医療センター（奈良市七条西町2丁目）



奈良県立医科大学附属病院新病棟（E病棟）  
来院者が癒やしを感じられるアメニティ空間を創出します。

新しい奈良の医療を  
あなたの手で創りませんか？



### 南和地域医療提供体制の再編・整備

公立3病院の機能再編を行い、救急医療を中心に担う病院として南奈良総合医療センターが2016年4月に開院、また、回復期・慢性期を中心に担う病院として吉野病院と五條病院が2016年4月と2017年4月にそれぞれリニューアルオープンしました。急性期から回復期、慢性期までのシームレスな医療を提供しています。

#### 南奈良総合医療センターの整備

##### <基本方針>

- 地域の救急を断らない病院
- 消化器系疾患、糖尿病、外傷・運動器疾患等の専門医療の推進
- 災害時に対応する医療
- へき地医療への対応

#### 吉野病院・五條病院の整備

##### <基本方針>

- 地域に根ざした身近な外来機能
- 療養への対応

●在宅医療との連携を見据えた高齢者医療も目指します。

新たな南和地域の医療提供体制では、公立へき地診療所に勤務する医師の診療技術向上のための指導・研修機能も担います。

#### 救急医療を中心に担う病院の整備



大淀町福神地区に新設  
南和広域医療企業団 南奈良総合医療センター

### 再編



吉野病院を改修  
南和広域医療企業団 吉野病院



五條病院を改修  
南和広域医療企業団 五條病院

回復期・慢性期を中心に担う病院の整備

# 奈良県の医療の現状

## 1. 救急医療と周産期医療

2018年の奈良県民アンケート調査において、重要度が高い項目（全33項目）の第1位に「急病時に診てもらえる医療機関があること」（満足度10位）、第7位に「安心して子どもを出産できる医療体制が整っていること」（同28位）が挙げられました。

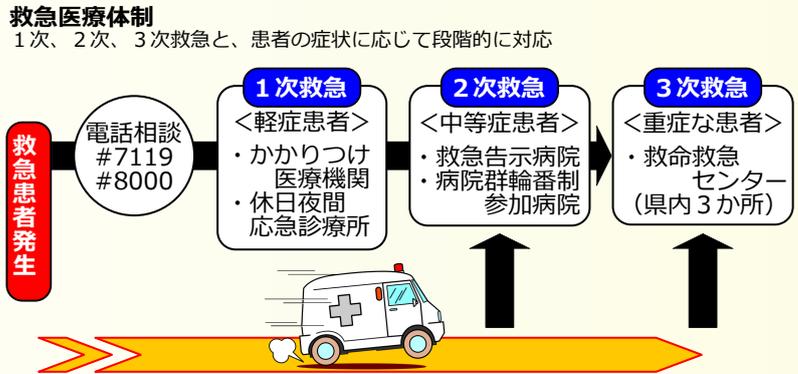
「急病時に診てもらえる医療機関があること」については、調査開始以来初めて平均を上回る満足度が得られ、救急医療に対する改善が進んでいることを確認できます。

### ◆ 救急医療の充実に向けて

#### ■ 奈良県の救急医療

患者の症状に適した救急医療を受けられるよう1次救急（入院治療を必要としない比較的軽症の患者）、2次救急（入院治療を必要とする中等症患者）、3次救急（2次救急では対応できない重症な患者）と段階的に対応した体制の整備を進めています。

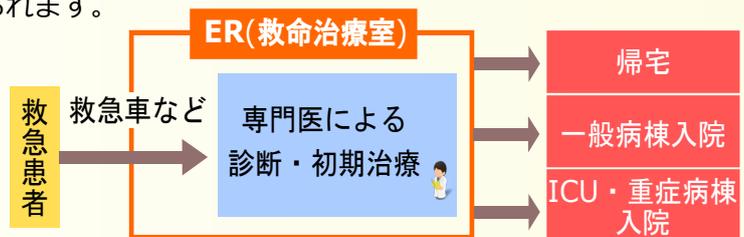
1次救急医療は、かかりつけ医や各市町村が設置・運営する休日夜間応急診療所が対応し、2次救急医療は市町村が病院群輪番制等により対応しています。また、小児2次救急医療については、県内を2地域に分けて輪番制を実施しています。3次救急医療は、県内3カ所の救命救急センターが重篤患者の受入を行っています。



2018年の救急搬送人数（約6.6万人）は、10年間で約22%増加しています。その背景として、高齢者が搬送される例が増加していることが要因の一つと考えられます。

そのため、奈良県立医科大学附属病院、奈良県総合医療センターでは、軽症から重症まで初期診断が難しい患者にも広く対応可能な「ER型救急医療体制」を整え、増加する救急患者の受入れを強化し、「断らない病院」の実現に向けた取り組みを進めています。

あわせて、重篤患者に医師による初期治療を速やかに開始できるよう、ドクターヘリの運行を行い、救命率の向上、搬送時間の短縮等、救急医療体制の充実を図っています。



また、県民が救急車を呼ぶべきかどうか迷ったときや、医療機関の案内などに対応する「奈良県救急安心センター相談ダイヤル（#7119）」や、子供の急病時に医療機関を受診すべきかどうか、様子を見るべきかなど、保護者からの相談に対応する「こども救急電話相談（#8000）」症状に応じた適正な受診を促すとともに、不要不急の救急要請を抑制しています。

#### 今後の取り組み

- ER型救急体制の整備
- 救急医療を担う医師の育成

### ◆ 周産期医療の充実に向けて

#### ■ 奈良県の周産期医療

奈良県の周産期医療（妊娠22週から出生後7日未満の時期における母体・胎児・新生児にかかる医療）は、各関係機関の連携や医師の努力で改善が図られてきました。

軽症患者を診る産婦人科1次救急体制を確保したほか、2008年に奈良県立医科大学附属病院を「総合周産期母子医療センター」に指定、2010年には奈良県立奈良病院（現 奈良県総合医療センター）を「地域周産期母子医療センター」に認定し、リスクに応じた医療機関の役割分担を推進しました。

この結果、ハイリスクの妊婦の県内受入率は、2006年の79.7%から2018年には97.0%と改善されております。

周産期母子医療センター  
ハイリスク妊婦の周産期医療を担う



## ■産科医療を支える医師

奈良県内の産婦人科・産科医師数は、2008年以前は、減少の一途をたどっていましたが、2008年以降は増加に転じました。

2016年の女子人口（15～49歳）10万人当たりの産婦人科・産科医師数では42.1人で、全国平均（43.6人）との差を縮めています。

### 今後の取り組み

- ハイリスク妊婦や新生児に対応する周産期母子医療センターの充実
- 産科医療を担う医師の育成



## 2.がん医療

奈良県における死亡原因の第1位はがんであり、総死亡数に対し28.2%（2017年）を占めています。

今後、高齢化に伴って、がん患者数の増加が見込まれる中、県民が県内の医療機関で質の高いがん医療を受けることができるよう、奈良県立医科大学附属病院や、奈良県総合医療センター等の「がん診療連携拠点病院」を中心に、がん医療提供体制の更なる充実を図っています。

### 今後の取り組み

- 県内で質の高いがん医療を提供できる体制の整備・充実



奈良県立医科大学附属病院  
新病棟（E病棟）放射線治療室

## 3.南和地域の医療

現在、公立3病院を、救急医療を中心に担う1つの病院（南奈良総合医療センター 2016年開院）と回復期・慢性期を中心に担う2つの病院（吉野病院2016年・五條病院2017年リニューアルオープン）に役割を分担して、新しい組み合わせの3つの病院に再編整備されました。

南奈良総合医療センターでは、24時間365日救急搬送を受け入れ、ドクターヘリを運用し、救急医療が強化され、奈良県が目指す「断らない病院」の先駆けとなりました。

また、病院の再編前（2015年）と再編後（2018年）を比べ、病床稼働率が65.0%→88.5%と23.5%改善され、救急搬送受入数では、1日あたり5.7件→10.1件と約1.77倍に増加する等、着実に南和地域の医療が充実してきています。

### 今後の取り組み

- 専門診療の充実
- 災害時医療の強化
- へき地医療の支援
- 地域完結型医療の充実
- 総合診療医の育成

## 奈良県の医師数

奈良県の人口10万人当たりの医師数（医療施設に従事）は、2016年は243.1人で全国平均の240.1人と全国平均を上回りました。

今後の高齢化の進展とともにますます医療需要が高まると予想されることから、引き続き**将来の奈良の医療を担う医師の育成が重要な課題となっています。**



# だから今、あなたの力が必要です。

自己実現と地域貢献の達成を目指して、  
あなたの力を奈良で生かしてください。

# 臨床研修は奈良で ～初期臨床研修について～

医師がどのように養成されるかご存じですか？医学部では、医師に必要な教養を学ぶ教養課程、医学の基礎である解剖学や生理学などを学ぶ基礎医学課程、患者診療に必要な医学を学ぶ臨床医学課程を通じて医師を養成するための教育が行われます。

医学部の卒業が認められると、医師国家試験を受験します。国家試験に合格すると晴れて医師免許が与えられます。しかし、この段階は車の免許で言えば、「仮免許」のような状態です。日本全国どこでも医師として活躍するためには、2年間の初期臨床研修を受けなければなりません。

初期臨床研修について、奈良県立医科大学附属病院臨床研修センター長であり、奈良臨床研修協議会代表を務めていただいている 赤井 靖宏 教授 にお話を伺います。

- 医師になるには初期臨床研修が必須です。
- 初期研修では医療の基本を学びます。
- 奈良県では多様な臨床研修が可能です。



赤井 靖宏 先生

1995年 奈良県立医大大学院修了。国立循環器病センター研究所を経て、1996年から米国トマスジェファーソン医大病院内科、ペンシルバニア大腎臓・電解質・高血圧内科で臨床修行。2014年から現職。米国内科専門医、米国腎臓内科専門医。

## 【初期臨床研修制度】

- Q 研修医はどんなことを行うのですか？  
A 研修中は、指導医の指導のもとに実際の診療にあたります。
- Q 研修医の身分や待遇はどうなっているのですか？  
A それぞれの研修病院の規定に従いますが、勤務医として処遇され、給与が支払われます。
- Q 研修期間中はどこの病院でも勤務できますか？  
A 医師法の規定により、臨床研修を修了せずどこでも一般診療に従事することは禁じられています。研修医は臨床研修に専念する義務が課せられていますので、研修期間中は指定された研修病院以外で医療を行うことはできません。
- Q 自分の専門診療科はいつから始められますか？  
A 初期臨床研修修了後に専門研修が始まります。初期臨床研修修了後は、多くの研修医が診療に従事しながら、専門分野の「専門医」資格の取得を目指して3～5年の専門研修（「後期研修」とも言います）に進みます。

## 【臨床研修病院】

- Q どの初期臨床研修病院で研修するかはどうやって決まるのですか？  
A 研修病院は、全国の大学附属病院や臨床研修指定病院から自由に選ぶことができます。実際の研修先は、医学部6年生の10月に、研修希望者（医学生）と臨床研修病院双方の希望を踏まえて組み合わせを決定する「医師臨床研修マッチング制度」で決定されます。（詳細は臨床研修マッチング協議会HP「JRMP」を参照してください。）

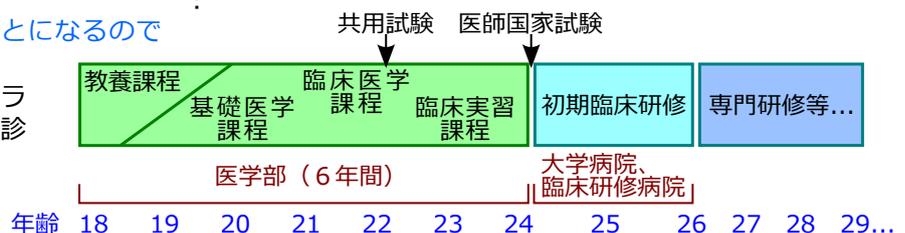
## 【臨床研修プログラム】

- Q 研修中は多くの診療科の研修を受けることになるのですか？  
A 臨床研修2年間では、研修病院のプログラムに従って複数の診療科を回り、幅広い診療科での初期診療を学びます。

2020年度からの研修プログラムは、内科、救急部門に加えて外科、小児科、産婦人科、精神科が必須の研修科となります。また、地域医療施設で在宅医療などの地域医療を研修することも必須です。必修研修以外の期間は、「将来専門としたい診療科で重点的に研修する」、あるいは「できるだけ多くの診療科を回って研修する」など将来のキャリアにあわせた研修が可能です。

## 【奈良県の臨床研修】

- Q 奈良県にはどんな臨床研修病院があるのですか？  
A 奈良県には10の臨床研修病院があります。各病院には多くの熱心な指導医がおり、地域医療から高度な専門性を持つ医療まで、多様な研修が可能です。奈良県の臨床研修病院は従来から緊密に連携してきましたが、平成23年4月には従来の連携をより強化するために奈良県とともに「奈良臨床研修協議会」を発足させました。より良い臨床研修プログラム策定や研修医に魅力を感じてもらおう研修体制づくりについての意見交換やイベントを行っています。協議会が主催するイベントとして、県内の臨床研修医が一堂に会する「研修医の集いin奈良」を開催し、研修医の症例発表や指導医の講演などを通じて、臨床研修医・指導医の交流に努めています。また、奈良県内、近畿、全国規模での臨床研修病院説明会では奈良県内の臨床研修病院群で合同出展をしており、県内外を問わず多くの医学生が訪れます。先輩研修医や指導医からじっくりと直接話を聞くことのできるよい機会ですので、ぜひご参加下さい。



# 奈良県の臨床研修病院について

奈良県には10の臨床研修病院があります。

各病院には、魅力的な指導医の先生方、先輩方が多くおられ、患者さんと向き合う地域医療から高度な専門性を持つ医療まで、多様なプログラムを用意しています。

## 奈良県総合医療センター (460床)

当院は救命救急センターを有する県北和の急性期総合病院であり、指導医のもと幅広い症例を経験することができます。

県内で初めて内視鏡手術支援ロボット(ガ・ビツ)を導入するなど最先端の機器を整備し、多くの技術を習得できます。

病院全体で研修医を育てる風土があり、診療科を越えての相談も気軽にできます。充実した研修医生活を用意して皆さんを待っています。



## 市立奈良病院 (350床)

当院は、2013年に新病院となりました。古都奈良の中心部、奈良公園の傍らにあり、地域に密着しながら高度な医療を担っています。



当院の卒業生は、医師として「人を助ける」ための基本的な能力を身に付けて、各領域へと羽ばたいていきます。

モットーは、「楽しく」「患者本位」「学びを大切に」です。ぜひ、一緒に研修しましょう。

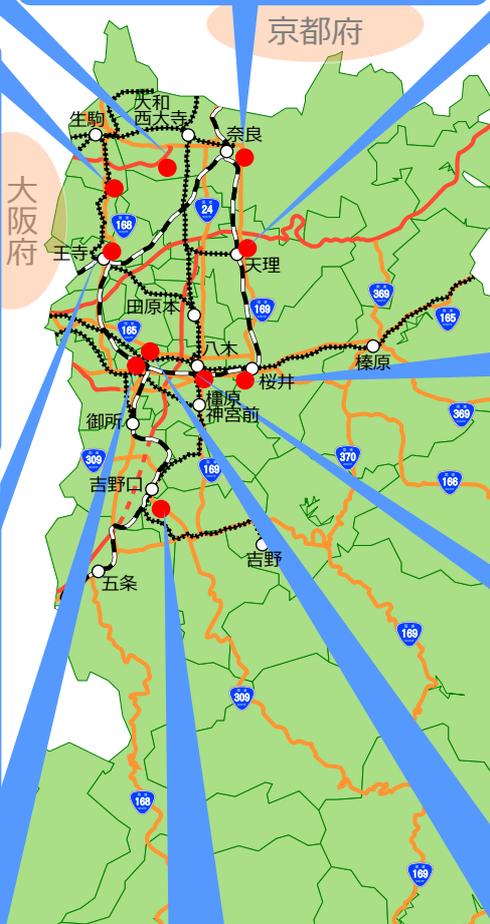
## 天理よろづ相談所病院 (715床)

1976年、わが国で初めて総合診療を基盤とする「天理方式」の卒後臨床研修が当院で開始された。患者さんのどのような問題もチーム医療によって解決する能力を修得することを究極のねらいとしている。単なる臨床の知識ではなく、その時々の問題を分析し、解いていく知恵が身についているかどうか、つまりいかなる場でも通用する問題解決能力を修得することが、研修の最終目標である。



## 近畿大学奈良病院 (518床)

当院は開院20年の大学病院と一般中核病院の両方の機能を有しています。心臓・血管センター・がんセンターを運営し、診療連携拠点病院などの指定を受けている地域の基幹施設ではありますが、その一方初期研修医の視点から見れば、指導医との距離感が近い病院です。多種の大学から集まった同僚間も大変仲がいいので、すぐにチーム全体の仲間になります。2年目は自由に選択できるうえ、北海道や訪問診療を含む医療機関とも連携しているので、好奇心さえあれば楽しく有意義な研修生活をおくる事が可能です。



## 済生会中和病院 (324床)

ようこそ研修医の皆さん。中和病院では、皆さんの研修が充実するように万全の態勢を整えています。少人数制のプログラムであるため、さまざまな手技・症例の経験を積むことができ、更なる成長を約束します。また、自由度の高いプログラムで、あなたが望む研修ができます。Only Oneの研修をあなたに。全職員でサポートします。ぜひ、中和病院で研修を！



## 奈良県西和医療センター (300床)

当センターは、地域密着型の基幹病院(地域医療支援病院)であり、集学的循環器病治療研究センターを有することからも分かるように重症救急医療に重きをおく診療体制をとっています。初期研修の特徴は、最前線の医療現場で戦うスピリットを形成すること、最前線でしか得ることのできない経験から学ぶことです。研修医が圧倒的な症例の中で指導を受けることが出来る環境こそが最大の特徴です。



## 南奈良総合医療センター (232床)

「南和の医療は南和で守る」を基本理念として2016年に開院しました。ドクターヘリの基地でもあり、南和で唯一の公的急性期病院として救急を一手に引き受ける一方、総合診療・在宅・へき地支援にも力を入れ、急性期から回復・療養期、病院・在宅・へき地診療所まで南和の医療を丸ごとシームレスに経験できます。また少人数制ですので、指導医のもと研修医は主体的に医療を実践できることが特徴です。



## 奈良県立医科大学附属病院 (992床)

当院は大学病院として高度な専門性を持つ先進医療を担いつつ、奈良県中・南部を主な医療圏とする地域中核病院として、プライマリ・ケア、EMT・救急の研修が経験できます。臨床研修センターが中心となり、研修医本位の仕組みが策定されており、十分な指導体制の下で多くの手技を習得できること、多数の科の協力の下、論理的な診断治療を学ぶことが特徴です。



## 大和高田市立病院 (320床)

当院では、どの診療科もコモディティーズを抱える患者さんと向き合う機会が豊富で、プライマリ・ケア修練を望む医療者にとっては、とって魅力的な病院です。また、教育研修センターは「『ジュネーブ宣言』の宣誓式」「弱みへの挑戦」と「他者理解」へと研修医の皆さんを導き、「問題対応能力」「科学的探究力」「生涯に亘って共に学ぶ姿勢」を伸ばします。



## 土庫病院 (199床)

当院の初期研修では様々な疾病や患者の諸問題に対応できる総合力を身に付けることを目標としています。その目標のためには、疾病に起因する生活歴や社会背景も捉えながら、人生の営みにおける健康をマネジメントすることが重要です。救急・外来から入院・在宅・退院後の生活までを考え、支える主治医としての能力を高める研修を行っています。患者を中心とする、多職種とのチーム医療を通じて、確かな成長ができます。



各病院名の右に記載しているのは、2019年9月1日時点の病床数です。

# 医師を目指すみなさんへ ～奈良県知事からのメッセージ～

豊かな奈良づくりのために掲げる基本目標の中に「住んでよし」という目標があります。「住んでよし」は、全ての県民が健やかで安心して暮らせるまちづくりを進めることです。「住んでよし」を実現するには、地域で必要な時に医療を受けられることが重要な基盤の一つとなります。

本県では、E R型救急体制の整備やドクターヘリの運用等、救急医療体制の確立、超高齢社会で医療や介護等を一体的に提供する地域包括ケアシステムの構築等に取り組んでいます。

2016年4月に公立3病院が再編され、南和地域の救急医療を担う南奈良総合医療センターが開院しました。さらに2018年5月には、北和地域の高度医療拠点病院として奈良県総合医療センターが開院し、充実した医療を提供できる環境が整ってきました。

県民が健やかで安心して暮らせるまちづくりを進めていくためには、みなさまの力が必要です。

奈良を故郷とする方、かつて奈良で学ばれた方、あるいは奈良に興味をもたれた方、医師として奈良の人々の健康や暮らしを守っていただけませんか。そして、誰もが安心して質の高い医療を受けられる、そんな奈良を一緒につくっていきませんか。

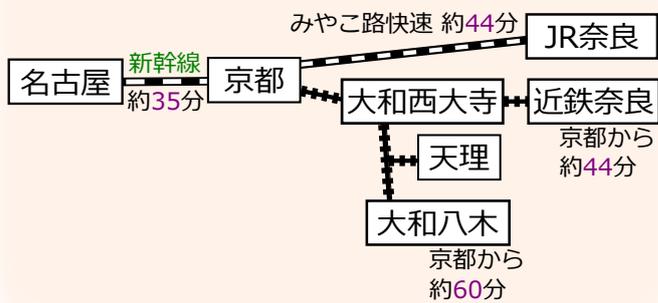


奈良県知事  
荒井 正吾

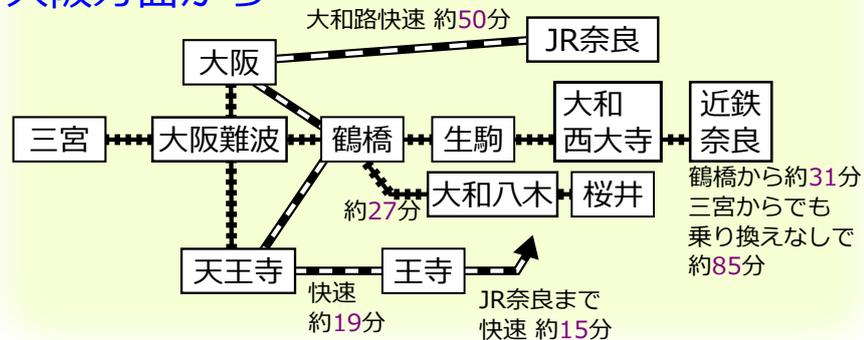
## 奈良県へのアクセス

※近鉄電車の所要時間は快速急行又は急行利用の場合です。

### 京都・名古屋方面から



### 大阪方面から



## ならUIプロジェクト

知れば知るほど **奈良** はおもしろい

ならUIプロジェクトとは、奈良県から医学部・医科大学へ進学された医学生の方、及びその保護者の方に対して、奈良県の医療政策や医学生向けの情報を提供するサービスです。医学生の方が奈良の医療状況に興味を持ち、将来的に奈良県で医師として活躍することで、奈良県の医療、ひいては県民の皆様の健康を守ることにもつながります。

本プロジェクトにご賛同・ご登録いただき、皆様の進路を考えるにあたってのご参考にしていただければ幸いです。

### ○情報提供内容例

- ・医学部での医学教育の情報
- ・奈良県研修病院見学などのサポート
- ・臨床実習に関する情報提供
- ・奈良県への医師就職サポート
- ・奈良県臨床研修病院に関する情報提供 など

ご登録は

ならドクターズネット

検索

2014年2月 初版発行  
2016年3月 改訂版発行  
2018年3月 改訂版発行  
2019年10月 改訂版発行

編集・発行 奈良県医療政策局  
医師・看護師確保対策室  
連絡先 奈良県奈良市登大路町30  
TEL : 0742-27-8644

